

学力調査結果 【2年生】

(1)全体を通して

2年生は東京都の「児童生徒の学力向上を図るための調査」(平成27年7月実施)の結果を分析しました。

5教科すべてにおいて、東京都の平均正答率とほぼ同様の結果でした。内容を観点別にみると「思考・判断・表現」と「技能」の観点やや低いという結果でした。

また、読み解く力に関する内容については、教科によって異なりますが「取り出す力」「解決する力」が十分ではありませんでした。その原因としては、学習の中で得た技能が十分に定着していないということが考えられます。授業の中で得た技能や知識を活用するために、基本問題から段階的に応用問題に取り組みせ、技能の定着を図るとともに、課題解決した過程や学んだ知識をまとめて発表させる機会を積極的に設ける必要があると考えています。

2年		平均正答率		備考	分析
国語		本校	都		
観点別 正答率	国語への関心・意欲・態度	58.9	58.5		観点別に見ると、「書く」「言語についての知識」が都の平均を若干下回った。この結果から、語彙力の向上を図りながら、文章などを書く機会を設定し、「書く能力」の向上を図る必要がある。また、資料から情報を読み取り書き表す能力や、内容を短くまとめて要約する能力にも課題があり、このことが「読み解く力」の結果にも反映されている。 文章を読む際に、何のために読むのか、その目的を明確にして情報を取り出し、内容をまとめて書く能力を高める。
	話す・聞く能力	59.9	56.2		
	書く能力	33.4	33.4		
	読む能力	69.1	66.3		
	言語についての知識・理解・技能	66.0	66.5		

2年		平均正答率		備考	分析
社会		本校	都		
観点別 正答率	社会的事象への関心・意欲・態度	73.3	74.0		「技能」の観点の問題の正答率が低い傾向にあった。資料から読み取る力、資料を用いて問題を解決する力も低い傾向にあることがわかった。また、内容別に見ると地理に関する資料の活用に課題があることがわかった。授業の中で資料集等を活用してワークシートに書かせるなど、読み取る力を付けさせるとともに定期テストの中でもそうした問題を増やしていく。
	社会的な思考・判断・表現	57.2	56.9		
	資料活用 of 技能	47.7	49.9		
	社会的事象についての知識・理解	54.3	52.0		

2年		平均正答率		備考	分析
数学		本校	都		
観点別 正答率	数学への関心・意欲・態度	83.2	89.0		観点別に見ると基本的な「知識・理解」や「技能」はやや下回ったが、都平均と同程度で概ね身についている。また、「読み解く力」についてはどの観点も都の平均を上回った。「思考・判断・表現」については、都平均と同様に正答率が低く課題である。「技能」だけを身に付けて終わらずに、「思考・判断」力を使って「読み取る力」を身に付けさせ、解決に必要な情報を取り出して問題解決に結び付けられるようにしていく。具体的事象から考える数学を目指していきたい
	数学的な見方や考え方	29.2	30.5		
	数学的な技能	59.7	61.1		
	数量や図形などについての知識・理	59.6	61.3		

2年		平均正答率		備考	分析
理科		本校	都		
観点別 正答率	自然事象への関心・意欲・態度	91.1	89.5		「思考・判断・表現」を除いた3観点では都平均を上回っている。「思考・判断・表現」の観点では課題を与えた時に十分な時間を与え、ひらめいた内容を重視し、それを自分で発表できるように指導する。 実験・観察を通して、子どもたちの興味・関心を育てながら、実験や観察結果に対して科学的に考えさせることで「思考力・判断力・表現力」を育てる。
	科学的な思考・判断	43.6	46.3		
	観察・実験の技能	60.1	59.0		
	自然事象についての知識・理解	52.4	51.2		

2年		平均正答率		備考	分析
英語		本校	都		
観点別 正答率	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	79.7	75.8		「関心・意欲・態度」については身近な内容を取り上げ、生徒の興味関心を高めることができた。「表現の能力」については英語で書く・話すことへ抵抗があるので、基本的な文法事項の定着とそれを活用して表現する活動を行う。 また、「理解の能力」については、長文を読む機会が少ないので、簡単な会話文や長文を使い慣れさせることから始める。
	外国語表現の技能	23.3	26.0		
	外国語理解の能力	73.0	73.4		
	言語や文化についての知識・理解	58.3	61.6		